

二〇三二年六月二五日

夏日影塀より高き一断碑

ぼんこ

ひもとけば紙魚もなつかし虚子句集

よし子

簾上ぐ山に夕日の沈むまで

よし子

雨蛙載せれば鼓動手のひらに

宏 虎

裸子の真つ赤に泣いて寝返りす

なつき

下闇にせせらぐ峡の奈落かな

わかば

清水の舞台袖より夏の蝶

かかし

大岩の影より覗く七変化

ぼんこ

禅寺の悟りの窓に緑さす

ぼんこ

月光の届かぬ水辺恋蛭

む べ

毎週句会秀句・みのる選・二〇三二年六月二六日